

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ヒロシマブンカガクエン 学校法人 広島文化学園								
フリガナ大学の名称	ヒロシマブンカガクエンダイガクダイガクイン 広島文化学園大学大学院 (Graduate School of Hiroshima Bunka Gakuen University)								
大学本部の位置	広島県呉市郷原学びの丘1-1-1								
大学の目的	広島文化学園の建学の精神である「究理実践」に基づき「対話の教育」を推し進め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、更に高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	広範な人間健康学の専門的知識を体系化するとともに、自らの研究成果を基に理論的な指導法を確立し、さらに、それらを教授できる高度な実践力を有する専門的人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 人間健康学部 スポーツ健康福祉学科 14条特例の実施
	人間健康学研究科 [Graduate School of Human Health Science]	2	5	-	10	修士（人間健康学）	令和4年4月 第1年次	広島県安芸郡坂町平成ケ浜3-3-20	
	人間健康学専攻 [Major in Human Health Science]					【Master of Human Health Science】		広島県呉市郷原学びの丘1-1-1	
計			5	-	10				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	研究科の設置 大学院人間健康学研究科 修士課程 (令和3年3月認可申請) 定員変更 人間健康学部スポーツ健康福祉学科 (30) 看護学部看護学科 (△20) 学芸学部子ども学科 (編入学△5) 学芸学部音楽学科 (編入学△5) 看護学研究科看護学専攻 博士前期課程 (△2) 教育学研究科子ども学専攻専攻 博士前期課程 (△5)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	人間健康学研究科 人間健康学専攻	講義	演習	実習	計				
		20 科目	4 科目	0 科目	24 科目	30 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等
	新設	人間健康学研究科 人間健康学専攻 (修士課程)	7 (7)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	2 (2)
		計	7 (7)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	2 (2)
		既設	看護学研究科 看護学専攻 (博士課程前期)	16 (16)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	28 (28)	0 (0)
	看護学研究科 看護学専攻 (博士課程後期)		10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	5 (5)
	教育学研究科 子ども学専攻 (博士課程前期)		9 (9)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	6 (6)
	教育学研究科 子ども学専攻 (博士課程後期)		7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	3 (3)
	計	25 (25)	15 (15)	6 (6)	0 (0)	46 (46)	0 (0)	-	
	合計		32 (32)	19 (19)	10 (10)	0 (0)	61 (61)	0 (0)	-

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計		大学全体	
	事 務 職 員		39 (39)	8 (8)	47 (47)			
	技 術 職 員		0 (0)	14 (14)	14 (14)			
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)	5 (5)	8 (8)			
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	3 (3)	3 (3)			
	計		42 (42)	30 (30)	72 (72)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		大学全体	
	校 舎 敷 地	46,037.34㎡	15,815.29㎡	0.00㎡	61,852.63㎡			
	運 動 場 用 地	63,611.31㎡	2,767.80㎡	0.00㎡	66,379.11㎡			
	小 計	109,648.65㎡	18,583.09㎡	0.00㎡	128,231.74㎡			
	そ の 他	65,903.74㎡	8,352.12㎡	0.00㎡	74,255.86㎡			
	合 計	175,552.39㎡	26,935.21㎡	0.00㎡	202,487.60㎡			
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		広島文化学園短期大学と共用	
		28,000.28㎡ (28,000.28㎡)	9,554.47㎡ (9,554.47㎡)	3597.29㎡ (3597.29㎡)	37,554.75㎡ (37,554.75㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体	
	36室	116室	14室	11室 (補助職員 3人)	0室 (補助職員0人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数		19 室	
		人間健康学研究科 人間健康学専攻						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	人間健康学研究科	78,005 [11,659] (77,869 [11,654])	63 [8] (63 [8])	20 [20] (20 [20])	43 (43)	0 (0)	0 (0)	
	計	78,005 [11,659] (77,869 [11,654])	63 [8] (63 [8])	20 [20] (20 [20])	43 (43)	0 (0)	0 (0)	
			面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		
図 書 館		2,435㎡		392席	205,000冊			
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体	
		4,894㎡		野球場 (1面), サッカー場 (1面), テニスコート (11面), 柔道場, マシン・トレーニング室, ダンス・スタジオ				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		350千円	350千円	- 千円	- 千円	- 千円
	共同研究費等		1,000千円	1,000千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円
	図書購入費	3,000千円	500千円	700千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円
	設備購入費	1,000千円	500千円	1,000千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,200千円	950千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金収入、資産運用収入、雑収入 等					

大学等の名称	広島文化学園大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既設大学等の状況	人間健康学部 スポーツ健康福祉学科	4	120	2年次 5 3年次 10	515	学士 (健康学)	1.13	平成30年度	広島県呉市郷原学 びの丘一丁目1番1 号
	看護学部 看護学科	4	130	2年次 4 3年次 4	540	学士 (看護学)	0.87	平成11年度	広島県呉市阿賀南 二丁目10番3号
	学芸学部 こども学科	4	80	3年次 10	340	学士 (子ども学)	0.85	平成22年度	広島市安佐南区長 東西三丁目5番1号
	音楽学科	4	40	3年次 5	170	学士 (音学)	1.00	平成22年度	同上
	看護学研究科 看護学専攻 博士課程(前期)	2	8	—	16	修士 (看護学)	0.56	平成16年度	広島県呉市阿賀南 二丁目10番3号
	博士課程(後期)	3	3	—	9	博士 (看護学)	0.66	平成24年度	同上
	教育学研究科 子ども学専攻 博士課程(前期)	2	8	—	16	修士 (子ども学)	0.18	平成26年度	広島市安佐南区長 東西三丁目5番1号
	博士課程(後期)	3	3	—	9	博士 (子ども学)	0.22	平成28年度	同上
	大学等の名称	広島文化学園短期大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
コミュニティ生活学科	2	80	—	160	短期大学士 (生活総合学)	1.07	平成15年度	広島市安佐南区長 東西三丁目5番1号	
食物栄養学科	2	50	—	100	短期大学士 (栄養学)	0.87	昭和42年度	同上	
保育学科	2	100	—	200	短期大学士 (保育学)	0.81	昭和57年度	同上	
附属施設の概要	なし								

教育課程等の概要															
(人間健康学研究科人間健康学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	人間健康学特講	1前	2			○			4	4	4			兼1	オムニバス
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			4	4	4	0	0	兼1	—
専門科目	健康・スポーツ科目群	健康スポーツ科学特講	1前	2			○		1						
		健康スポーツ心理学特講	1後	2			○		1						
		健康スポーツ栄養学特講	2前		2			○			1				
		健康スポーツ生理学特講	1後		2			○			1				
		健康スポーツ運動学特講	1前		2			○			1				
		スポーツバイオメカニクス特講	1後		2			○			1				
	小計（6科目）	—	4	8	0	—			2	1	3	0	0	0	—
	スポーツ教育科目群	生涯スポーツ特講	1前	2			○		1						
		コーチング学特講	1後	2			○			1					
		スポーツ教育学特講	1前		2		○			1					
		体育科教育学特講	1後		2		○				1				
		人間形成論特講	2前		2		○		1						
		スポーツ国際開発学特講	2前		2		○								兼1
	小計（6科目）	—	4	8	0	—			2	2	1	0	0	1	—
	福祉／アダプテッド・スポーツ科目群	アダプテッド・スポーツ科学特講	1前	2			○				1				
		地域福祉実践特講	1後	2			○		1						
		アダプテッド・スポーツ指導学特講	1後		2		○			1					
		高齢者・障がい者身体活動論特講	2前		2		○		1						
児童・家庭福祉論特講		1後		2		○								兼1	
社会福祉学特講		1前		2		○		1							
医療福祉実践特講	2前		2		○		1								
小計（7科目）	—	4	10	0	—			4	2	0	0	0	兼1	—	
演習科目	人間健康学特別研究Ⅰ	1前	2				○		7	5	4				
	人間健康学特別研究Ⅱ	1後	2				○		7	5	4				
	人間健康学特別研究Ⅲ	2前	2				○		7	5	4				
	人間健康学特別研究Ⅳ	2後	2				○		7	5	4				
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			7	5	4	0	0	0	—
合計（24科目）			—	22	26	0	—		7	5	4	0	0	兼2	—
学位又は称号		修士（人間健康学）			学位又は学科の分野			体育関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
2年以上在学し、その在学期間中に必修科目22単位、選択科目8単位以上の計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を在学期間中に提出して、その審査及び最終試験に合格することとする。								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人間健康学研究科人間健康学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	人間健康学特講	1前	2			○			4	4	4			兼1	オムニバス
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			4	4	4	0	0	兼1	—
専門科目	健康・ 科目群 スポーツ	健康スポーツ科学特講	1前	2			○		1						
		健康スポーツ心理学特講	1後	2			○		1						
		健康スポーツ栄養学特講	2前		2			○				1			
		健康スポーツ生理学特講	1後		2			○				1			
		健康スポーツ運動学特講	1前		2			○				1			
		スポーツバイオメカニクス特講	1後		2			○			1				
	小計(6科目)	—	4	8	0	—			2	1	3	0	0	0	—
	スポーツ 科目群 教育	生涯スポーツ特講	1前	2			○		1						
		コーチング学特講	1後	2			○			1					
		スポーツ教育学特講	1前		2		○			1					
		体育科教育学特講	1後		2		○				1				
		人間形成論特講	2前		2		○		1						
		スポーツ国際開発学特講	2前		2		○								兼1
	小計(6科目)	—	4	8	0	—			2	2	1	0	0	1	—
福祉/ アド ブ テ ッ ド ・ ス ポ ー ツ 群 目 的 ス	アダプテッド・スポーツ科学特講	1前	2			○				1					
	地域福祉実践特講	1後	2			○		1							
	アダプテッド・スポーツ指導学特講	1後		2		○				1					
	高齢者・障がい者身体活動論特講	2前		2		○		1							
	児童・家庭福祉論特講	1後		2		○								兼1	
	社会福祉学特講	1前		2		○		1							
	医療福祉実践特講	2前		2		○		1							
小計(7科目)	—	4	10	0	—			4	2	0	0	0	兼1	—	
演習 科目	人間健康学特別研究Ⅰ	1前	2				○		7	5	4				
	人間健康学特別研究Ⅱ	1後	2				○		7	5	4				
	人間健康学特別研究Ⅲ	2前	2				○		7	5	4				
	人間健康学特別研究Ⅳ	2後	2				○		7	5	4				
	小計(4科目)	—	8	0	0	—			7	5	4	0	0	0	—
合計(24科目)			—	22	26	0	—		7	5	4	0	0	兼2	—
学位又は称号		修士(人間健康学)			学位又は学科の分野			体育関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
2年以上在学し、その在学期間中に必修科目22単位、選択科目8単位以上の計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を在学期間中に提出して、その審査及び最終試験に合格することとする。							1学年の学期区分				2期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人間健康学研究科人間健康学専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
演 習 科 目	人間健康学特別研究Ⅰ	1前	2				○		3	3	4			
	人間健康学特別研究Ⅱ	1後	2				○		3	3	4			
	人間健康学特別研究Ⅲ	2前	2				○		3	3	4			
	人間健康学特別研究Ⅳ	2後	2				○		3	3	4			
	小計(4科目)	—	8	0	0		—		3	3	4	0	0	0
合計(4科目)			—	8	0	0		—	3	3	4	0	0	0
学位又は称号		修士(人間健康学)		学位又は学科の分野			体育関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
2年以上在学し、その在学期間中に必修科目22単位、選択科目8単位以上の計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を在学期間中に提出して、その審査及び最終試験に合格することとする。							1学年の学期区分				2期			
							1学期の授業期間				15週			
							1時限の授業時間				90分			

授業科目の概要			
（人間健康学研究科人間健康学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	人間健康学特講	<p>この授業は人間健康学専攻の学問を体系的に理解させるため、学問の体系に従って横断的・網羅的に教授するものであり、専攻院生全員が共通して学習する内容を有する授業である。従ってこの授業は1年次に配当し、かつ必修科目として位置付ける。</p> <p>具体的には大きく分けて健康・スポーツ的内容、スポーツ教育的内容、福祉/アダプテッド・スポーツ的内容の3つの分野について、それぞれの分野を専門とする教員によってオムニバス形式による授業を展開する。 （オムニバス方式/全15回）</p> <p>(2 工藤隆治/1回) 社会福祉の歴史的起点として、イギリスの『社会保険および関連サービス』（ペヴァリッジ報告）の内容を講義したうえで、社会保障計画について討論させる。</p> <p>(3 武田守弘/3回) 本研究科が定義する人間健康学の概念、人間健康学の社会的、歴史的背景、各分野におけるニーズと展開、ライフステージに沿ったニーズと展開を学ばせ、さらに、それらを統合させる実践の創造を考えさせる。 スポーツ心理学(メンタルトレーニング)の多岐にわたる研究課題の概説を行い、院生が興味を持つテーマを選択し、その内容を詳細に解説するとともに今日的課題解決法を検討させる。 本講義の最終的な成果発表として、院生による研究発表会を行わせる。</p> <p>(6 渡邊 満/1回) 人間であることの人間的基盤（知・徳・体の調和と全人的統一性）を明らかにして、スポーツ教育の人間形成としての可能性を検討させる。</p> <p>(7 加地信幸/1回) アダプテッド・スポーツの専門的知識を理解させ、障害者、特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者を対象とした指導理論を学ばせる。</p> <p>(3 高田康史/1回) “スポーツを”教える”上で必要な1：スキル、2：心構え、3：準備にテーマを絞り議論させる。院生とのディスカッションを中心にスポーツを指導することを学ばせる。</p> <p>(2 大藤文夫/1回) 現代の地域社会における福祉問題の解決は、「協働」という方法を志向している。家族、地域社会、全体社会（行政）が連携する取り組みを紹介し、ディスカッションを行わせる。</p> <p>(11 房野真也/1回) 動きの巧みさや、効率的な動き解明するというスポーツバイオメカニクスの目的について学ばせる。また、測定法及び分析法、実際の研究例について紹介し、それらについてディスカッションを行わせる。</p> <p>(12 松尾晋典/1回) 「指導」「育成」という行動機軸に、「マネジメント」「国際性への対応」「事故防止・安全対策」を加えた5つのコーチング行動と、コーチングの哲学・倫理について学習させ、効果的なコーチングにおける理論および実践法の理解についてディスカッションを行わせる。</p> <p>(13 鬼塚純玲/1回) 人間が成長、発育して生命を維持し、健康な生活活動を営むために必要な栄養・食事について学ばせる。自身の食生活を振り返り、良い点や改善点についてディスカッションを行わせる。</p> <p>(4 前田一篤/1回) 学校教員の養成・採用・研修の各段階における教育活動について概観させる。とりわけ、保健体育科と関連させて、実際に行われている取り組みの体験を通して学修させる。</p> <p>(15 升本絢也/1回) 体育指導やスポーツ教育において、指導者が学習者がよりよく運動スキルを改善するために最適なフィードバック方法を学ばせる。また、講義内容に基づいてディスカッションを行わせる。</p> <p>(16 森木吾郎/1回) ヒトの身体の機能と運動・スポーツの関係について学ばせ、関連する研究論文等に基づいてディスカッションを行わせる。</p> <p>(17 白石智也/1回) 「スポーツを通じた国際開発」の実践に関して、先行研究及び文献から、その目的と方法、また、成果や課題について学習させ、それらに関するディスカッションを行わせる。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	健康スポーツ科学特講	日常生活にスポーツや身体活動を取り入れることによって、豊かで健康な人生を送ることができ、生活の質をいっそう高めることが可能である。一方、過度の安静や日常生活の不活発状態が続くと、生活習慣病と総称されている病気に罹患する確率が高くなる。本講義では、健康な生活を営むために必要となる健康スポーツ科学の最新の知見と、生活習慣病の予防に必要なスポーツ科学の理論を学修することを目的とする。授業では、運動と肥満予防、肥満がもたらす疾病とその予防・改善法、筋肉の機能などを学び、これらの知識を基に自ら研究課題を設定し、その内容について研究発表を行う。	
	健康スポーツ心理学特講	本講義ではスポーツ及び健康に関する心理的諸問題について検討する。運動をすることで私たちの心は変化する。また逆に、心境の変化が運動パフォーマンスをプラスの方向にも、マイナス方向にも変化させる。本講義では、運動やスポーツの実践過程を心理学的に解釈することから始め、運動が上手になる・楽しくなる環境や、そこでの行動変容について、さらには運動を継続することの意味や価値等についてもアプローチする。その中で、実践者の「やる気」や個人および集団の性質、技能向上のプロセスと練習方法・指導法等を講義する。また健康心理学の最重要点であるストレスにも焦点を当て、ストレスの発生機序及び対象方法等についても講義する。本講義は、関連する研究論文の検索及び精読、ディスカッション、プレゼンテーションを活用して双方向の講義を展開する。	
	健康スポーツ栄養学特講	スポーツ栄養学とは、運動やスポーツによって身体活動量が多い人に対して必要な栄養学的理論・知識・スキルを体系化したものである。国際オリンピック委員会や国際競技団体が発表しているスポーツ栄養コンセンサスでは、エビデンスに基づいた栄養・食事摂取の量や組成、タイミングなどに関する具体的な理論や知識がまとめられている。そこで本講義では、最新のスポーツ栄養コンセンサスを講読し、論文紹介とディスカッションを通して競技者に望ましい栄養摂取について理解を深め、専門的・実践的な知識を習得する。	
	健康スポーツ生理学特講	スポーツ生理学とは、ヒトの身体の機能と運動・スポーツの関係について理解する科目であると同時に、あらゆる健康・運動指導における基礎的科目である。本講義では、運動・スポーツによって呼吸器系、循環器系、骨格筋系などの各機能に生じる一時的・永続的適応、トレーニングに伴う各機能の変化について解説し、さらには関連する研究論文や実験データに基づいたディスカッションを行わせる。それらの講義を通して、スポーツ生理学領域の専門知識を身につけ、その知識を活用できる基盤を養う。	
	健康スポーツ運動学特講	本講義では、スポーツ運動学の諸問題を取り扱い、健康を増進する運動及びスポーツ活動における巧みな身体動作に係る科学的（神経生理学的・実験心理学的）および哲学的な研究にアプローチする。本講義の目的は日常生活やスポーツ場面における非常に複雑な運動スキルの分類や解釈法を網羅し、多様で複雑な人間の身体運動を高レベルで分析・考察・解釈できる能力の得ることである。授業では、関連する研究論文の精読及びプレゼンテーションを介して双方向の講義を展開し、知識を深化させる。	
	スポーツバイオメカニクス特講	身体運動や生物の構造を力学的な側面から解明する領域がバイオメカニクスである。解剖学・生理学・力学を応用して、身体の動きの巧みさ、美しさ、また効率的な動きを解明しようというスポーツ科学の一分野である。本講義では、主に運動・スポーツ分野について、バイオメカニクスの観点から捉えるために必要な測定方法、分析方法、データ処理法を理解し、合理的に運動技術を獲得できるよう実際に応用できることを目的とする。授業は、関連する研究論文の精読及びディスカッションやプレゼンテーションを活用して双方向の講義を展開する。	
スポーツ教育科目群	生涯スポーツ特講	子ども、高齢者、障がい者、女性、外国人等を含め全ての人々が分け隔てなくスポーツに親しみ、多様なスポーツ参画を保障する生涯スポーツ社会の形成が求められている。本講義では、生涯スポーツ社会が求められる社会的・歴史的背景をふまえて、生涯スポーツに関する国内外の捉え方、さらにはスポーツの価値、スポーツとライフスタイルやライフスタイル等に関する知見を深め、指導者として必要なスポーツ・インテグリティと専門性の高い理論的科学的な指導に関する知識を身に付けることを目的とする。授業では、基礎となる講義で学修した知識を基に自ら課題を設定し、その課題についてのプレゼンテーションや受講生同士のディスカッション等を積極的に取り入れて学修を深めていく。	
	コーチング学特講	「指導」「育成」という行動機軸に、「マネジメント」「国際性への対応」「事故防止・安全対策」を加えた5つのコーチング行動と、コーチングの哲学・倫理について学習し、効果的なコーチングにおける理論および実践法の理解を深めることを目的とする。また、コーチング方法や実践に関するこれまでの研究成果や事例を通しての学習だけではなく、「聴く」「伝える」などのファシリテーションスキルを高める機会を設け、コミュニケーション能力の向上を目指した双方向の講義を展開する。コーチとしての指導ができると共に、コーチデベロッパーとしての資質と基礎的能力を備えた人材の育成を図ることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	スポーツ教育学特講	この講義では、スポーツ・運動の指導力や教育力を高めることを目標とする。様々な運動領域において存在する、これまでの典型教材や学習方法及び学習指導方法、そして、練習方法やワークについて、その在り方や価値、メリットデメリットを探究する。また、学習者の興味関心を引き立たせる行動やモチベーションを高める方法、学習成果や効果を上げるための教育方法に付いてペアワーク・ディスカッションなどAL的手法を交えて考察していく。 また、講義の後半では、模擬授業や模擬指導・マイクロティーチングなども踏まえた実践的な教育方法についてスキルアップを目指すこととする。	
	体育科教育学特講	本講義では、昨今の学校教育における体育の教育的意義を確認し、その教材の検討および体育教師の養成・採用・研修の段階を通じた力量形成について、実践的・理論的な両面から検討させる。教育の最前線に立つ教師の力量形成について、文部科学省は「学び続ける教師像」の確立を求めている。これは、教職生活全体を通じて、教師それぞれが自らの実践的指導力の向上を図るとともに、めまぐるしく変化する社会状況の中で、教育の断続的な刷新が必要であることを示している。そこで本講義では、教師が探究力を持ち学び続けるために必要な要素や方法について、ディスカッションやプレゼンテーションなどを交えた双方向な展開で検討していく。	
	人間形成論特講	近代に始まる教育、とりわけ学校教育の意義と課題を近代社会の展開と近代教育の基盤を形作ってきた人間形成に関する諸思想・諸理論の検討を通して明らかにするとともに、グローバル化と情報化の進展と私事化の拡大等によって生じる子どもたちの諸課題（学びの困難さといじめ問題等の生徒指導上の諸課題など）に対応しうる実践的教育方略を様々な授業論を事例にしながら探究する。これを通して、今日の学校教育において課題とされている対話や議論などの言語活動を学びと指導の中心に位置付けながら、これからの学習指導の理論的・実践的基盤を形成する。授業は講義と問題解決的な活動を併用して行う。	
	スポーツ国際開発学特講	2030年までの達成に向け、国際連合によって提唱された「持続可能な開発目標（SDGs）」の中では、17項目の目標達成に向けた強力なツールとして、体育・スポーツの持つ可能性が取り上げられている。本科目では、学校体育及び生涯スポーツの特性と、国際開発の構造を理解した上で、社会の安定及び繁栄のために国内外で推進されている「スポーツを通じた国際開発」の役割について学ぶことを目的とする。授業形態として、アクティブ・ラーニングの手法、とりわけ、反転学習やプレゼンテーション、ディスカッションなどを援用した上で、先行研究の中で蓄積されている「スポーツを通じた国際開発」の事例から、今後の「スポーツを通じた国際開発」の発展に向けた方向性について考察していく。	
福祉／アダプテッド・スポーツ科目群	アダプテッド・スポーツ科学特講	アダプテッドスポーツとは、障害者や高齢者、子どもあるいは女性等が参加できるように修正された、あるいは新たに創られた運動やスポーツ、レクリエーション全般を指しており、本来は1人1人の発達状況や身体条件に適応させたスポーツという意味である。本授業は、アダプテッド・スポーツを科学的に捉えて、対象となる人々の立場に立ったプログラム開発ができる基礎力を養うことを目的とする。まず、定義や概念、対象となる人々の特性、関連分野との異同について解説を行う。その後、専門図書や学術論文を用いた文献講読、プレゼンテーション及び質疑応答を通して理解を深める。	
	地域福祉実践特講	以前と比べて、地域社会の福祉課題は複雑化している。その解決のために様々な住民、専門機関の連携、協働が志向されている。課題解決に向かって、地域福祉のシステム化が求められている。そこで、本講義では、こうした地域福祉の現状を適切に把握し、理解を深め、課題解決に向けての提案能力をえるために、とくに地域福祉の担い手形成に関する文献・事例から検討を行い、地域福祉実践とそれを取り巻く環境について考察を深める。	
	アダプテッド・スポーツ指導学特講	本講義では、障害者スポーツ指導者として必要な専門的知識を身につけさせ、障害が重度であっても、指導者が対象者の実態に応じてルールや用具等を工夫することでスポーツは可能であることを理解させる。具体的には、アダプテッド・スポーツの概念及び歴史を通して意義を理解したうえで、障害者、特に医療的ケアを要する重度・重複障害児者を対象としたアダプテッド・スポーツに係る最新の知見、指導に必要な障害の特徴、および指導方法論を学修することを目的とする。授業形態は、ディスカッション、プレゼンテーションを活用した双方向の講義を展開する。学習者は、障害者スポーツ指導者として身につけた高度な専門的知識を基に、関連する研究論文の検索、および精読を通じて研究課題を設定し、研究発表を行う。	
	高齢者・障がい者身体活動論特講	身体の動きが制限されたり、運動能力が低下した高齢者や障がい者が、人生の内容の質や社会的にみた生活の質をいかにして維持・増進していくかは現代社会の重要な課題の一つである。本講義では、まず健康に関連した生活の質（健康関連QOL）について、健康関連QOLをどのように評価するかを解説する。そして、高齢者や障がい者の健康関連QOLを向上させる上での身体活動の重要性を講義し、受講生はQOL向上のために支援できる能力を獲得できることを目標とする。なお、本講義での障がい者は、身体障がい者である脳性麻痺者及び脊髄損傷者を対象とする。本授業では、最新の研究論文を講読し、その内容についてプレゼンテーションを行い、質疑応答を通して高齢者・障がい者の健康関連QOL向上について理解を深めさせる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 福祉／アダブテッド・スポーツ科目群	児童・家庭福祉論特講	次代を担う児童への期待は少子・超高齢社会の到来により、大きくなる反面、児童が育つ環境は、家庭基盤の希薄、母親の孤立が目立ち、児童福祉の領域は、児童と家庭福祉の領域となってきた。本授業では、現代の児童と家庭福祉の現状について科学的に捉えて、対象となる子どもたちの立場に立った支援の開発ができる実践力を育むことを目的とする。まず、定義や概念、対象となる子ども、家庭、地域の状態、関連分野との異同について解説を行う。その後、専門書籍、公式資料、及び学術論文を用いた文献講読を行い、プレゼンテーション及び質疑応答を通して理解を深める。	
	社会福祉学特講	社会福祉の理論、政策の歴史を踏まえながら、社会福祉学の体系を学習する。第1に、過去の日本の研究者の社会福祉理論を学習する。具体的には、大河内一男と孝橋正一、竹中勝男、竹内愛二、岡村重夫、嶋田啓一郎と木田徹郎、一番ヶ瀬康子と真田是と高島進、三浦文夫、船曳宏保、高田眞治、古川孝順の各理論を考察する。第2に、戦後日本の経済政策と福祉国家政策の理念の展開を踏まえ、ケインズ・ベヴァリッジ主義、ハイエク・フリードマン主義、そして、福祉多元主義など社会福祉や経済に関わる理論・考え方について考察する。戦後の社会福祉の理論と経済、社会保障・社会福祉にかかわる政策理念や方向性などについて議論し、社会福祉学の体系を学習する。なお、本講義は講義と討論形式で行う。	
	医療福祉実践特講	本講義では、ソーシャルワークの発祥と医療への波及を歴史的・社会的に概観し、実践の中核とされるクライアントの自己決定・意思決定とそれらへの支援の重要性を確認する。また昨今臨床場面で起こっている心理・社会・経済・倫理的等の問題とその解決・緩和を、具体的な事例を通して学ぶ。医療機関のみで支援が完結するのではなく、マイクロ・メゾ・マクロの循環を意識した実践を学修する。それらをフィールドワークで学び、プレゼンテーションの形で整理しディスカッションにより深める。	
演習科目	人間健康学特別研究 I	<p>(概要) 人間健康学の特定分野に焦点を当て研究の実践、指導を行い、各テーマに基づいた論文指導を行う。</p> <p>自身のテーマについてどのような先行研究がどのような方法ですすめられてきたかについて講義する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解し、先行研究を精査する方法を享受する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアの使用法を解説する。</p> <p>(1 大塚 文) 社会福祉学のうち保健医療分野のソーシャルワークを中心にテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。先行研究の講読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(2 工藤隆治) 社会福祉学に関する幅広い分野からテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。先行研究の講読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(3 武田守弘) スポーツ心理学及び健康心理学に関する幅広い分野からテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。先行研究の講読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(4 東川安雄) スポーツ社会学、生涯スポーツに関する幅広い分野からテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。先行研究の講読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(① 山崎昌廣) スポーツ科学、健康科学に関する幅広い分野からテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。先行研究の講読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(6 渡邊 満) 人間形成論に関する幅広い分野からテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。先行研究の講読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(② 大藤文夫) 地域福祉に関する幅広い分野からテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。先行研究の講読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(7 加地信幸) アダブテッドスポーツ指導法に関する幅広い分野からテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。先行研究の講読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(8 河野 喬) アダブテッド・スポーツ及び障がい者福祉について、歴史的背景、課題等を取り上げ、先行研究を中心に研究指導を行う。</p> <p>(③ 高田康史) 運動教育学、保健体育教育学に関する幅広い分野からテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。先行研究の講読を通して問題意識を明確にする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	人間健康学特別研究Ⅰ	<p>(11 房野真也) スポーツバイオメカニクスに関する幅広い分野からテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。先行研究の講読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(12 松尾晋典) 指導・育成という行動機軸をもとにした効果的なコーチングに関わる、先行研究や資料から文献研究を中心とした研究指導を行う。</p> <p>(13 鬼塚純玲) スポーツ栄養学に関する幅広い分野からテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。先行研究の講読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(④ 前田一篤) 体育科教育学に関する幅広い分野からテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。先行研究の講読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(15 升本絢也) スポーツ運動学に関する幅広い分野からテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。先行研究の講読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(16 森木吾郎) スポーツ生理学及び運動生理学に関する幅広い分野からテーマを設定し、文献・資料の入手方法について指導する。先行研究の講読を通して問題意識を明確にする。</p>	
	人間健康学特別研究Ⅱ	<p>(概要) 人間健康学の特定分野に焦点を当て研究の実践、指導を行い、各テーマに基づいた論文指導を行う。 自身のテーマについて先行研究がどのような方法ですすめられてきたかについて問題提起する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解するため、先行研究を提示する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアの運用を享受する。また、学会発表を通して伝え方のスキルを身につけ、データ整理、分析能力を養う。</p> <p>(1 大塚 文) 社会福祉学のうち、保健医療分野におけるソーシャルワークを中心に先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(2 工藤隆治) 社会福祉学に関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(3 武田守弘) スポーツ心理学及び健康心理学に関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(4 東川安雄) スポーツ社会学、生涯スポーツに関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(① 山崎昌廣) スポーツ科学、健康科学に関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(6 渡邊 満) 人間形成論に関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(② 大藤文夫) 地域福祉に関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(7 加地信幸) アダプテッドスポーツ指導法に関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(8 河野 喬) アダプテッドスポーツに関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	人間健康学特別研究Ⅱ	<p>(③ 高田康史) 運動教育学、保健体育教育学に関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(11 房野真也) スポーツバイオメカニクスに関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(12 松尾晋典) コーチングに関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(13 鬼塚純玲) スポーツ栄養学に関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(④ 前田一篤) 体育科教育学に関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(15 升本絢也) スポーツ運動学に関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p> <p>(16 森木吾郎) スポーツ生理学及び運動生理学に関する先行研究の講読を通してテーマ関連の傾向や動向を把握すると同時に、新たな文献・資料の収集に努め、それらの精読を通して問題意識を明確にする。</p>	
	人間健康学特別研究Ⅲ	<p>(概要) 人間健康学の特定分野に焦点を当て研究の実践、指導を行い、各テーマに基づいた論文指導を行う。 自らの研究テーマに焦点を絞り、実験、調査、文献研究を通して、各自の設定した問いに対して探究する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアを使用し分析し結果を導き出す。また、学会発表を通して伝え方のスキルを身につけ、データ整理、分析能力を養う。</p> <p>(1 大塚 文) 社会福祉学のうち、保健医療分野におけるソーシャルワークに関して収集した文献・資料の分析・考察を深める。そして、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(2 工藤隆治) 社会福祉学に関して収集した文献・資料の分析・考察を深める。そして、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(3 武田守弘) スポーツ心理学及び健康心理学に関して収集した文献・資料の分析・考察を深める。そして、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(4 東川安雄) スポーツ社会学、生涯スポーツに関して収集した文献・資料の分析・考察を深める。そして、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(① 山崎昌廣) スポーツ科学、健康科学に関して収集した文献・資料の分析・考察を深める。そして、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(6 渡邊 満) 人間形成論に関する研究テーマに即した文献・資料の的確な精読につとめ、必要であれば、実地調査等も行うよう指導する。さらに、課題の所在が明確な論文構成案を作成し、集積したデータの分析・考察を逐次行うことができるように研究指導を行う。</p> <p>(② 大藤文夫) 地域福祉に関する研究主題についての文献調査や実践研究に基づき、必要な情報の収集・整理と分析・考察を進め、論文作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(7 加地信幸) アダプテッドスポーツ指導法に関して収集した文献・資料の分析・考察を深める。そして、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	人間健康学特別研究Ⅲ	<p>(8 河野 喬) アダプテッド・スポーツ科学に関する研究主題についての文献調査や実践研究に基づき、必要な情報の収集・整理と分析・考察を進め、論文作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(③ 高田康史) 運動教育学、保健体育教育学に関して収集した文献・資料の分析・考察を深める。そして、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(11 房野真也) スポーツバイオメカニクスに関して収集した文献・資料の分析・考察を深める。そして、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(12 松尾晋典) 指導・育成という行動機軸をもとにした効果的なコーチングに関して収集した文献・資料の分析・考察を深める。そして、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(13 鬼塚純玲) スポーツ栄養学に関して収集した文献・資料の分析・考察を深める。そして、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(④ 前田一篤) 体育科教育学に関して収集した文献・資料の分析・考察を深める。そして、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(15 升本絢也) スポーツ運動学に関して収集した文献・資料の分析・考察を深める。そして、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p> <p>(16 森木吾郎) スポーツ生理学及び運動生理学に関して収集した文献・資料の分析・考察を深める。そして、修士論文の作成に向けての研究指導を行う。</p>	
	人間健康学特別研究Ⅳ	<p>(概要) 人間健康学の特定分野に焦点を当て研究の実践、指導を行い、各テーマに基づいた論文指導を行う。 自らの研究テーマに焦点を絞り、各自の設定した問いに対して最終的な結論を導き出す。また、修士論文の提出、発表会を通して修了研究を終結させる。</p> <p>(1 大塚 文) 社会福祉学のうち、保健医療分野のソーシャルワークに関する文献調査、調査、データの整理、分析、考察を通して、修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(2 工藤隆治) 社会福祉学に関する文献調査、実験、調査、データの整理、分析、考察を通して、修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(3 武田守弘) スポーツ心理学及び健康心理学に関する文献調査、実験、調査、データの整理、分析、考察を通して、修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(4 東川安雄) スポーツ社会学、生涯スポーツに関する文献調査、実験、調査、データの整理、分析、考察を通して、修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(① 山崎昌廣) スポーツ科学、健康科学に関する文献調査、実験、調査、データの整理、分析、考察を通して、修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(6 渡邊 満) 人間形成に関する文献・資料調査や実地調査から得られたデータをもとに、分析・考察を行い、修士論文の完成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(② 大藤文夫) 地域福祉に関する研究主題について、文献調査や実践研究を通して得られた資料・情報をもとに、分析・考察を進め、論文完成へ向けての研究指導を行う。</p> <p>(7 加地信幸) アダプテッドスポーツ指導法に関する文献調査、実験、調査、データの整理、分析、考察を通して、修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(8 河野 喬) アダプテッド・スポーツ科学に関する研究主題について、文献調査や実践研究を通して得られた資料・情報をもとに、分析・考察を進め、論文完成へ向けての研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	人間健康学特別研究Ⅳ	<p>(③ 高田康史) 運動教育学、保健体育教育学に関する文献調査、実験、調査、データの整理、分析、考察を通して、修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(11 房野真也) スポーツバイオメカニクスに関する文献調査、実験、調査、データの整理、分析、考察を通して、修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(12 松尾晋典) 指導・育成という行動機軸をもとにした効果的なコーチングに関する文献調査、実験、調査、データの整理、分析、考察を通して、修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(13 鬼塚純玲) スポーツ栄養学に関する文献調査、実験、調査、データの整理、分析、考察を通して、修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(④ 前田一篤) 体育科教育学に関する文献調査、実験、調査、データの整理、分析、考察を通して、修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(15 升本絢也) スポーツ運動学に関する文献調査、実験、調査、データの整理、分析、考察を通して、修士論文を完成させる研究指導を行う。</p> <p>(16 森木吾郎) スポーツ生理学及び運動生理学に関する文献調査、実験、調査、データの整理、分析、考察を通して、修士論文を完成させる研究指導を行う。</p>	

学校法人広島文化学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容定員		令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容定員	変更の事由
広島文化学園大学				→	広島文化学園大学				
社会情報学部					<u>社会情報学部</u>				
グローバルビジネス学科	0	2年次 0 3年次 0	0	0	グローバルビジネス学科	0	2年次 0 3年次 0	0	令和3年9月廃止
健康福祉学科	0	3年次 0	0	0	健康福祉学科	0	3年次 0	0	令和3年9月廃止
人間健康学部					人間健康学部				
スポーツ健康福祉学科	120	2年次 5 3年次 10	515		スポーツ健康福祉学科	150	2年次 5 3年次 0	615	定員変更(30) 編入学定員変更(△10)
看護学部					看護学部				
看護学科	130	2年次 4 3年次 4	540		看護学科	110	2年次 4 3年次 4	460	定員変更(△20)
学芸学部					学芸学部				
子ども学科	80	3年次 10	340		子ども学科	80	3年次 5	330	編入学定員変更(△5)
音楽学科	40	3年次 5	170		音楽学科	40	3年次 0	160	編入学定員変更(△5)
	370	38	1,565			380	18	1,565	
広島文化学園大学大学院				→	広島文化学園大学大学院				
看護学研究科					看護学研究科				
看護学専攻(M)	8	—	16		看護学専攻(M)	6	—	12	定員変更(△2)
看護学専攻(D)	3	—	9		看護学専攻(D)	3	—	9	
教育学研究科					教育学研究科				
子ども学専攻(M)	8	—	16		子ども学専攻(M)	3	—	6	定員変更(△5)
子ども学専攻(D)	3	—	9		子ども学専攻(D)	3	—	9	
	22	—	50		人間健康学研究科				
					人間健康学専攻(M)	5	—	10	研究科の設置(認可申請)
						20	—	46	
広島文化学園短期大学				→	広島文化学園短期大学				
コミュニティ生活学科	80	—	160		コミュニティ生活学科	80	—	160	
食物栄養学科	50	—	100		食物栄養学科	50	—	100	
保育学科	100	—	200		保育学科	100	—	200	
	230	—	460			230	—	460	
専攻科					専攻科				
保育専攻	5	—	5		保育専攻	5	—	5	
栄養専攻	5	—	10		栄養専攻	5	—	10	
生活文化専攻	5	—	5		生活文化専攻	5	—	5	
	15	—	20			15	—	20	